

多能工育成校が着工

紅中

大手住宅設備商材流通の紅中(大阪市、中村晃輔社長)はハウスリフォーマー育成学院(長崎県西彼杵郡、中田竜学長)と提携し、旧高槻支店(大阪府高槻市)を同学院大阪校として利用する。2018年1月プレオープン、4月開校を目指し、7日に着工した。近年、職人不足が深刻化するなか、国・民間企業を問わず職人育

成に乗り出す動きが増えている。国土交通省は複数の技能を持つ「多能工」育成の議論を進めている。そうしたなか、同社は8月に同学院と提携を結び、旧高槻支店をハウスリフォーマー育成学院大阪校として利用することになった。LIXIL、パナソニック、OTOなどの建材を活用して施工法を実践学習する。現在、1クール・12日間の研修生6人を募集している。

成学院大阪校として利用することを決定。18年4月の開校を目指して取り組んでいる。大阪校では、12日間・合計80時間のハウスリフォーマー(多能工)育成プログラムを実施する。自社で多能工を抱えることで、コスト削減や工期短縮などの利点がある。